

## 5-(1) 履修登録にあたって

### はじめに

京都ノートルダム女子大学での学修は、自分が何を学ぶべきかを、あなた自身が決めるところから始まる。その最初の段階が毎年度始めに行う「履修登録」である。「履修登録」とは、その年度にどの科目を履修するかを申請する、いわば自分の時間割を組み立てる手続きのことである。

履修する科目を選ぶには、まず本学での目標を自分なりに定め、その達成に向けて4年間のおおよその計画を立て、それを年度ごとに見直した上で必要な科目を検討することが必要となる。「卒業後の自分」をしっかりとイメージし、その年度に何を学ぶべきかを自分自身で考えていくこと、このプロセス自体があなたの成長の一助となり、さらに目標に向けて努力を重ねること、大学生活は充実したものとなるであろう。

### 1. 履修計画

履修登録に取りかかる前に、4年間を見通した上でその年度の履修計画を立てることが大切である。学生便覧（この冊子）の所属学部・学科別「授業科目の履修・登録」（6. 人間文化学部、7. 生活福祉文化学部、8. 心理学部）及びオリエンテーション等で配付される資料をよく読み、自分の興味・関心や目指す職業を考えて、各年次で履修する科目をまずは大まかに決めておく。その際、「履修科目表」（111～149頁）に記載されている科目の配当学年や履修条件、隔年開講（1年置きの開講）かどうかなどに十分注意すること。

なお、履修計画の作成にあたってわからないことがあれば、オフィスアワーや履修相談日を利用して指導担当教員に相談すること。

### 2. 本学教育の基本理念

履修計画を立てる上でぜひ知っておいてほしいことのひとつが、京都ノートルダム女子大学の教育の理念である。

#### (1) 本学の建学の精神と教育の目的

京都ノートルダム女子大学の建学の精神は「徳と知 (Virtus et Scientia)」である。校名の「ノートルダム」には、私たちが聖母マリア（フランス語で「Notre Dame」）を理想としているという意味が込められている。このような理念のもと、本学では教育の目的を次のように定めている。

「本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする」（京都ノートルダム女子大学学則第1条）。

#### (2) 各学部・学科の教育目標

上記の目的を実現するため各学部・学科の教育目標が定められている。学則第1条及び各学部・学科のカリキュラムポリシー（「5-(2) 教育方針（3つのポリシー）」）を参照のこと。

### 3. シラバス（講義概要）

本学の教育理念や各学科等の教育目標をふまえ、個々の授業科目の具体的な教育目標、内容と方法などを詳しく記載した、いわば授業のメニューのようなものが「シラバス（講義概要）」である。シラバスを読むことで、履修する科目を選択する際の指針になるだけでなく、日々の授業で何をどのように勉強するかが確かめやすくなる。上記の「履修科目表」等とあわせ、積極的に活用してもらいたい。

### 4. 授業科目の区分

(1) 授業科目は共通教育科目（基盤科目、基礎科目、教養科目）、専門教育科目、学際教育科目及び資格取得科目からなっている。

(2) 授業科目の構成と本年度開講される科目は、「開講科目表」のとおりである。

## 5. 単位制

- (1) 授業科目の履修は単位制によって行われる。各科目の単位は「履修科目表」のとおりである。
- (2) 1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされ、授業の方法に応じ、教育効果や授業時間外の学修等を考慮して科目ごとに定められる。半年の科目の場合、2時間（1コマ）の授業で、講義・演習は1～2単位、実験・実習・実技は1単位が標準であるが、これらを組み合わせる等の方法で行われる科目もある。
- (3) 単位の基礎となる授業時間

講 時	1コマ（2時間）の時間	3時間連続
1 講時	9：00～10：30 (90分)	3時間連続の場合は開始時から135分とする。
2 講時	10：45～12：15 (90分)	
3 講時	13：10～14：40 (90分)	
4 講時	14：55～16：25 (90分)	
5 講時	16：35～18：05 (90分)	

- (4) 授業時間の出席時数
  - ① 年度始めに履修科目を登録し、原則として各科目の授業時数の「3分の2以上」出席し、かつ成績が60点以上であった場合に単位が認められる。
  - ② 出席時数の最終判断は、科目担当教員が行う。
- (5) 試験の実施要領  
平常試験、定期試験、追試験、再試験などについては、「12—(2)試験の実施要領について」(214頁)を新学期の始めまでに必ず読んで実施要領を遵守すること。

## 6. 卒業の要件

- (1) 卒業するためには、本学に4年以上在学し、所定の授業科目の単位を124単位以上修得しなければならない。
- (2) 本学は学年制を厳密に実施していないので、自動的に進級（学年進行）する。
- (3) 授業科目は必修科目、選択必修科目、選択科目に分かれている。必修科目は必ず履修しなければならない科目であり、選択必修科目とは一定の限られた科目群から1科目又は数科目を履修するよう決められている場合を言う。  
また、選択科目は必修科目及び選択必修科目以外の科目から各自が自由に選択して履修できる科目である。
- (4) 必修科目は学年別に配当され、授業時間やクラスが指定されるので、指定学年で履修するように努力すること。

## 7. 外国人留学生の履修方法

### ◇ 共通教育科目

外国人留学生については、外国語科目（計8単位）は以下のとおり履修する。ただし、(1)(2)については、英語英文学科所属の場合はこの限りではない。

- (1) 必修の英語の科目に代えて、次の外国語科目計6単位を全員が必ず履修しなければならない。  
日本語講読Ⅰ(1)、日本語表現Ⅰ(1)、日本語講読Ⅱ(1)、日本語表現Ⅱ(1)、日本語特講Ⅰ(1)、日本語特講Ⅱ(1)
- (2) 上記(1)以外の外国語科目から2単位を選択し、全員が必ず履修しなければならない。
- (3) 母語及び母国語にあたる外国語科目を履修することはできない。

## 8. 他大学及び留学で履修した単位等（上限30単位）

学則第17条及び第17条の2に定める他大学等での履修単位は、30単位まで卒業要件単位として認定される。

- (1) 他大学等単位互換科目で修得した単位数（8単位まで）
- (2) 学則第31条に定める留学により修得した科目・単位を本学の科目・単位に換算して認定された単位数
- (3) 特定目的海外研修（A）で修得した単位数（6単位まで）
- (4) 資格英語Ⅰ・Ⅱ、認定日本語、資格日本語、イングリッシュ・チャレンジⅠ・Ⅱの修得単位数  
以上4通りの単位の合計が、30単位を超えない範囲で本学の卒業要件単位として認められるが、修得単位の構成上、必ずしも30単位にならない場合があるので注意すること。

## 9. 卒業時までには身につけるべき「社会人基礎能力」

本学では、建学の精神に基づき、卒業時までには身につけるべき力として「社会人基礎能力」を定め、これを具現化する力として①自分を育てる力②共生・協働する力③コミュニケーションする力④創造・発信する力⑤思考・解決する力⑥主体的に行動する力——の6つの力を設定している。各授業科目のシラバスには、この社会人基礎能力が表示されている。

### 本学のミッションコミットメントに基づく本学で養成したい力

建学の精神	KNDUミッションコミットメント		ミッションコミットメントを具現化する力	具体的な力	
徳と知	尊ぶ	人と自分、物と自然の全てに敬意をもって向き合う	①自分を育てる力	・自己理解力 ・自己管理能力	・自己統制力 ・自己涵養（教養） 知識や教養を身につける力
			②共生・協働する力	・リーダーシップ ・協調性 ・責任感・誠実性 ・他者理解力	・相手を尊重する力 ・共感する力・思いやり ・他者尊重・人権意識 ・多文化・多様性を認められる力
	対話する	心をこめて聴き、 かかわりから学び、 真理を探究する	③コミュニケーションする力	・コミュニケーション力 ・ディスカッション能力 ・対人応答性	・外国語運用能力 ・日本語運用能力 ・交渉力・説得力
			④創造・発信する力	・プレゼンテーション力 ・発信力 ・発想・創造力	・スピーチ力 ・企画力 ・情報キャッチ力
	共感する	心を開き、人や時代の要請に敏感な感性をもつ	⑤思考・解決する力	・論理的思考力 ・計画力 ・分析力	・問題発見力 ・多面的に物事を考える力
			⑥主体的に行動する力	・問題解決能力 ・状況変化に柔軟に対応する能力 ・新たなスキル習得（IT、資格など）	・情報収集力 ・意欲を持って行動する力 ・ボランティア精神 ・ストレス耐性
行動する	対話し、決断し、責任をもって人々の幸せと世界平和のために行動する				

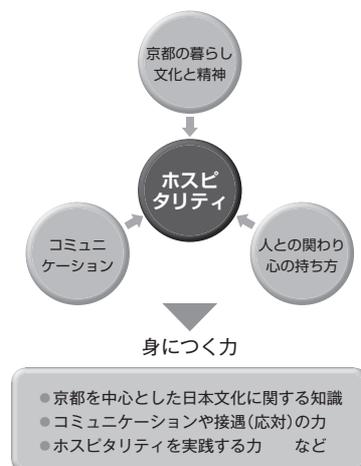
## 10. 学部横断型ライフキャリアプログラム等

### (1) 学部横断型ライフキャリアプログラム

学部・学科・専攻の専門教育の枠に捉われないことと、学習するテーマ別に複数の学部や学科が提供する科目の中から授業を選択できるプログラムとして開講される。このプログラムには、学内での学びだけにとどまらず、本学と企業や地域との連携による、実践的な学びの場も設けられている。所定の単位（計20単位）を修得した学生には「修了証」が発行される。

#### ① 産学連携「ホスピタリティプログラム—京都に学ぶ、おもてなしの文化と実践—」

「コミュニケーション」や「接遇（応対）」のあり方を考え、その具体的な方法を学ぶと同時に、京都の生活文化から「おもてなし」の精神を学ぶ。理論と実践の両方を学ぶことで思いやりの心を持って人と関わる力を養う。旅行・観光・サービスなど、将来のキャリアにもつながる学びである。



区分	科目名	単位数	必修・選択	科目区分	配当学年	備考
基礎科目	1. ホスピタリティ京都	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	1・2・3・4	
	2. ホスピタリティ入門 <sup>2)</sup>	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	1・2・3・4	
	3. ホスピタリティ論Ⅰ <sup>3)</sup>	2	選択必修 <sup>1)</sup>	専門 英語英文学科	1・2・3・4	
	4. ホスピタリティ論Ⅱ <sup>4)</sup>	2		専門 英語英文学科	1・2・3・4	
	5. 英語応用 d (Omotenashi English Conversation)	1		共通 外国語科目	1・2・3・4	各クラス定員25人
展開科目	6. 対人コミュニケーション	2		専門 英語英文学科	2・3・4	
	7. 異文化間コミュニケーション	2		専門 英語英文学科	2・3・4	
	8. 言語、文化、コミュニケーション	2		専門 英語英文学科	2・3・4	
	9. 旅行観光業研究	2		専門 英語英文学科	2・3・4	隔年（奇数年）
	10. 接遇のための日本語	1		専門 英語英文学科	2・3・4	
	11. 日本伝統文化論	2		専門 人間文化学科	2・3・4	
	12. 日本年中行事論	2		専門 人間文化学科	3・4	
	13. 京都学	2		専門 人間文化学科	2・3・4	
	14. 京都フィールドワーク研究	2		専門 人間文化学科	2・3・4	各クラス定員20人 (人間文化学科優先)
	15. 日本文化論	2		専門 人間文化学科	1・2	
	16. 京都衣生活論	2		専門 生活福祉文化学部	2・3・4	
	17. 京都食生活論	2		専門 生活福祉文化学部	2・3・4	隔年（奇数年）
	18. 京都住生活論	2		専門 生活福祉文化学部	3・4	
	19. 対人関係の心理学	2		専門 心理学部	2	人数制限予定
実践科目	20. キャリア形成ゼミ（旅行プランナーゼミ 他）	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	2・3	
	21. インターンシップ（ホテル・老舗研修）	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	2・3・4	

1) 基礎科目の「ホスピタリティ京都」「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ論Ⅰ」のうちの1科目（2単位）および実践科目の「キャリア形成ゼミ」「インターンシップ」のうちの1科目（2単位）計4単位を選択必修とし、総計20単位を修得すれば修了とする。

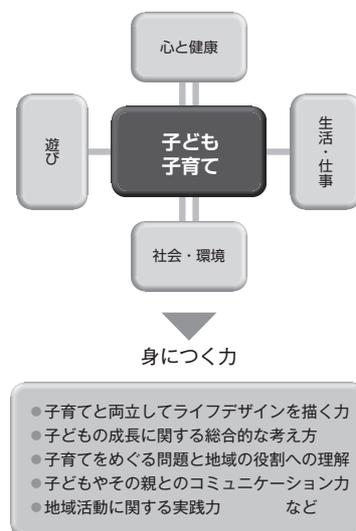
2) 英語英文学科以外の学生対象科目

3) 英語英文学科学生対象科目

4) 「ホスピタリティ入門」または「ホスピタリティ論Ⅰ」を前提科目とする

② 地域連携「子ども未来プログラム—子どもを支える女性のライフデザイン探究—」

生活や環境、心と健康、さらに学びや遊びのあり方など、子どもの成長に必要なことを総合的に学ぶプログラムである。子どもへの理解を深めると同時に、子どもを支える親の役割や子育てと仕事の両立などについても学ぶ。将来、子どもと関わる仕事へのつながりも視野に入れたプログラムである。



区分	科目名	単位数	必修・選択	共通教育・専門教育	配当学年	備考
基礎科目	1. 実践の子ども学	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 教養科目 (生活と社会)	1・2・3・4	集中
	2. 子どもと子育てのための生活環境学	1	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 教養科目 (生活と社会)	1・2・3・4	
	3. 女性の子育てとライフキャリア	1	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	1・2・3・4	
	4. 女性の権利	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 教養科目 (生活と社会)	1・2・3・4	
展開科目	5. 児童文学	2		専門 英語英文学科	2・3・4	
	6. 子どものための英語教育 I	2		専門 英語英文学科	2・3・4	
	7. 子どものための英語教育 II	2		専門 英語英文学科	2・3・4	
	8. 児童英語教育 I	2		専門 英語英文学科	2・3・4	定員30人
	9. 児童英語教育 II	2		専門 英語英文学科	2・3・4	定員30人
	10. 子どもの読書とメディア	2		専門 人間文化学科	2・3・4	隔年 (偶数年)
	11. 識字活動と子どもの権利	2		専門 人間文化学科	2・3・4	隔年 (奇数年)
	12. 昔話とストーリーテリング	2		専門 人間文化学科	2・3・4	
	13. 児童福祉論	2		専門 生活福祉文化学部	2・3	
	14. 保育の心理学 I	2		専門 生活福祉文化学部	1	
	15. 小児保健 I	2		専門 生活福祉文化学部	2・3	
	16. 小児保健 II	2		専門 生活福祉文化学部	2・3	
	17. 家族関係	2		専門 生活福祉文化学部	2・3・4	
	18. 乳幼児心理学	2		専門 心理学部	2	
	19. 児童心理学	2		専門 心理学部	1	
	20. 障害児心理学	2		専門 心理学部	3・4	
実践科目	21. キャリア形成ゼミ	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	2・3	
	22. インターンシップ	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	2・3・4	
	23. 児童館実践演習	2	選択必修 <sup>1)</sup>	共通 ライフキャリア形成科目	2・3・4	

1) 「実践の子ども学」「子どもと子育てのための生活環境学」「女性の子育てとライフキャリア」「女性の権利」のうちから2単位、および「キャリア形成ゼミ」「インターンシップ」「児童館実践演習」から2単位を選択必修とし、総計20単位を修得すれば修了とする。

4. 学則等

5. 履修登録にあたって

6. 人間文化学部

7. 生活福祉文化学部

8. 心理学部

9. 履修科目表

10. 免許・資格

11. 編入学

## (2) 学部共通プログラム

「医療サポート語学プログラム（英語）」：国際化に伴う医療を支援する医療語学力（医療英語力等）を持つ人材養成

京都には多くの外国人が滞在され、海外から高度な医療を求めて来日する外国人の増加も見込まれている。このような中で、外国人が日本においても安心して医療を受けられ、また帰国後の療養へと繋げていけることは大変重要なことである。そこで、人間文化学部英語英文学科および人間文化学科では、これまでの外国語教育に加えて、京都府立医科大学と共同して附属病院での実習も組み入れた新たな全学部対象の教育プログラムを開発し、外国人の医療支援に対応できる医療語学の専門性を有した人材養成を行う。本学が取り組んできたホスピタリティを基盤に語学力のある高度な医療サポートスタッフの養成を目指している。

区分		科目名	単位数	必修・選択	科目区分	配当学年	備考
主要科目	1.	医療サポート英語Ⅰ	2	必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	
	2.	医療サポート英語Ⅱ	2	必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	
	3.	医学概論Ⅰ	2	必修	共通教育科目	1・2・3	
	4.	医学概論Ⅱ	2	必修	共通教育科目	2・3・4	
	5.	医療サポート語学プログラム病院研修	1	必修	英語英文学科専門教育科目	3・4	
選択必修科目A	6.	ホスピタリティ入門	2	選択必修	共通教育科目	1・2・3・4	
	7.	ホスピタリティ論Ⅰ	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	1・2・3・4	
	8.	ホスピタリティ論Ⅱ	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	1・2・3・4	
	9.	旅行観光業研究	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	隔年開講（奇数年）
	10.	ホテルビジネス研究	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	隔年開講（偶数年）
	11.	接遇のための英語	1	選択必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	
	12.	異文化間コミュニケーション	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	
	13.	対人コミュニケーション	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	
	14.	認定日本語	2	選択必修	共通教育科目	1・2・3・4	
選択必修科目B	15.	同時通訳入門	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	1・2・3・4	
	16.	同時通訳法Ⅰ	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	定員20人
	17.	同時通訳法Ⅱ	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	2・3・4	定員20人
	18.	TOEICⅢ	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	1・2・3・4	
	19.	Communication SkillsⅢ	1	選択必修	英語英文学科専門教育科目	4	
	20.	英会話（中級）	1	選択必修	共通教育科目	3	
実践科目	21.	病院インターンシップ	2	選択必修	英語英文学科専門教育科目	3・4	

1. 主要科目9単位を必修とし、選択必修科目A・Bから各6単位を選択必修とし、総計21単位を修得すれば修了とする
2. 「医療サポート英語Ⅱ」は「同Ⅰ」、「医学概論Ⅱ」は「同Ⅰ」、「ホスピタリティ論Ⅱ」は「同Ⅰ」又は「ホスピタリティ入門」を前提科目とする
3. 「医療サポート英語Ⅱ」のクラスはTOEICで選別する可能性がある
4. 医療サポート語学プログラム病院研修は、原則として、履修しようとする年度にプログラムを修了見込である者のみ履修可能
5. キャリアセンター提供の医療事務講座（有料）を履修することを勧める

## 11. 免許・資格関係科目

免許・資格取得のための科目については、下表の参照頁の説明を熟読し、必要な科目をものないよう履修すること。

免許・資格	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部 心理学科			参照頁	備考
	英語 英文 学科	人間 文化 学科	生活福 祉文化 学科	現代 心理 専攻	学校 心理 専攻	臨床 心理 専攻		
教育職員免許状	中学校1種・高等学校1種(英語)	○					151	
	中学校1種・高等学校1種(国語)		○					
	中学校1種・高等学校1種(家庭)			○				
	小学校1種				○			
	幼稚園1種				○			
学校図書館司書教諭	○	○	○		○		165	教職課程(小・中・高)履修者のみ
図書館司書	○	○	○	○	○	○	167	
博物館学芸員	○	○					169	
保育士			○※				171	※保育士養成課程履修者のみ
社会福祉士(国家試験受験資格)			○				176	
精神保健福祉士(国家試験受験資格)			○				179	
二級建築士(国家試験受験資格)			○				185	
インテリアプランナー			○				187	
健康管理士一般指導員(受験資格)			○				189	
フードスペシャリスト(受験資格)			○				190	
認定心理士				○	○	○	192	
社会調査士				○			196	
社会福祉主事任用資格	○	○	○	○	○	○	197	
児童指導員任用資格			○※	○	○	○	199	※ソーシャルワーク主専攻者のみ
児童心理司任用資格				○	○	○		卒業後1年以上実務経験必要 ※ソーシャルワーク主専攻者のみ
児童福祉司任用資格			△※	△	△	△		
情報処理士	○	○		○	○	○	200	
ウェブデザイン実務士	○	○					203	
プレゼンテーション実務士	○	○					205	
日本語教員資格	○	○	○				207	

- (注) 1. 教職課程と司書課程を同時に履修することは極めて困難である。その他、複数の資格取得について制限が設けられているものがあるので、各学部・学科の指導に従うこと。  
2. 編入学、単位互換、転学部・転学科等により既修得単位の認定を受ける場合、本学の卒業要件単位として認められる単位であっても、資格取得のための科目の単位としては認められないことがあるので、必ず登録前に履修指導を受け、取得希望の免許・資格に必要な要件を確認すること。

## 12. 特別選択科目

他学部・他学科専門教育科目として履修できる☆印の科目以外の科目の履修を希望するときは、特別選択科目として履修が許可される場合がある。特別選択科目として科目を履修した場合、合格すれば単位は修得できるが、卒業に必要な単位には算入されない。

- 特別選択科目として科目履修を希望するときは、通常の履修登録とは別に、定められた期限までに特別選択科目履修申請書を提出しなければならない。
- 特別選択科目として受講が許可される科目については別に定める。希望者は事前に教務課・学事課に相談すること。
- 他学部・学科・専攻に設置された資格課程の科目を履修した場合であっても、当該他学部・学科・専攻で取得できる資格・免許が取得できるとは限らない。取得できる免許・資格については教務課・学事課に問合わせること。

## 13. 履修登録の概要

- (1) 履修登録とは、毎年度始めにその年度に履修するすべての授業科目を大学（教務課）に届出する手続きのことを言う。
- (2) 登録は、本人が責任をもって行うこと。代理登録は認められない。万一、登録期間に登録ができない事情が生じた時は必ず事前に教務課に連絡すること。
- (3) 履修登録の手順

履修登録の手続きは、おおむね以下のような手順で進む（詳しくは毎年度に配付する「履修登録の手引き」を参照すること）。学生用WEBシステム（Campusmate）を使用する。ただし、特定科目及び他大学等单位互換科目など一部の科目は登録及び単位認定方法が異なる。登録していない科目の単位は修得できないので慎重に作業を行うこと。

1年	2～4年	主な履修登録スケジュール
4月 (オリエンテーションウィーク)	2月下旬	①シラバス（WEB）、履修登録の手引き、授業時間割表などの資料WEB公開 →よく読んで履修計画を立て、「時間割表（履修計画書）」「受講科目一覧表」を作成する。
	2月～3月	②履修指導 →各オリエンテーション、取得を希望する資格の説明会などには必ず出席し、必要であれば指導担当教員等に相談する。
	3月上旬	③成績通知（新2～4年次生のみ） →必要に応じて履修計画を修正する。
	3月下旬	④履修登録説明会 →学生便覧（本冊子）・シラバス（1年次のみ）、履修登録の手引き、授業時間割表、学生手帳などの資料配布 ⑤WEB登録（学内コンピュータから） →作成した「時間割表（履修計画書）」に従いWEB画面から各自で入力する。「時間割表（履修計画書）」「受講科目一覧表」を完成させ、教務課に提出する。 ⑥仮登録科目（人数制限のある科目等）の抽選エントリー（学内コンピュータから）
	4月上旬	⑦仮登録科目抽選結果発表（WEBでの確認方法説明、履修登録確認表の配付）
前期授業開始後 約1週間	⑧前期履修検討（登録修正）期間、空きのある仮登録科目の再募集 →変更の必要があればWEB登録画面から各自で変更（仮登録科目については教務課・学事課窓口で手続）し、教務課に履修登録確認表に朱書にて修正したものを提出する。クラス指定科目は原則として変更できない。	
4月下旬	⑨登録確認 →申請したとおりに登録されているか確認する（履修登録の完了）。	
5月中旬	⑩履修中止申請期間	
後期授業開始後 約1週間	⑪後期履修検討（登録修正）期間、空きのある仮登録科目の再募集 →前期と同様だが、通年科目は変更できない。	
10月中旬	⑫後期登録確認（登録変更しなかった場合は不要） →前期⑨と同様。	
10月下旬	⑬後期履修中止申請期間	

## (4) 学際教育科目（他学部・他学科専門教育科目、他大学等单位互換科目）

「履修科目表」の科目名の前に☆印が付いている科目は、他学部・他学科・他専攻所属の学生が履修できる科目で、下表の単位数を上限として卒業要件に算入される。他大学等单位互換科目は、大学コンソーシアム京都の単位互換科目と、それ以外の協定大学単位互換科目（京都工芸繊維大学など）で、8単位を上限として卒業要件に算入される。

学部・学科（専攻）		学際教育科目として卒業要件に算入される単位数	うち他学部・他学科専門教育科目	うち他大学等单位互換科目
人間文化学部	英語英文学科	0～20	20	8
	人間文化学科	0～26	20	8
生活福祉文化学部	生活福祉文化学科	0～20	20	8
心理学部	心理学科	現代心理専攻	20	8
		学校心理専攻	14	8
		臨床心理専攻	14	8

## (5) クラス分け・クラス指定

科目名の末尾の(A)(B)などの記号はクラス分けを示している。同じ科目の複数のクラスを履修することはできない(特定目的海外研修を除く)。クラス指定される科目については、特別な事情(同一講時の別の科目を履修しなければ卒業できない等)のある場合を除き、クラスの変更はできない。

## (6) 配当学年

授業科目にはすべて履修できる学年が指定されている。自分の学年より低い学年に指定(配当)されている科目は履修できるが、上級学年に配当されている科目は履修できない。

## (7) 履修登録単位数の上限(CAP制)

無理なく学修を進めるため、1年間及び1学期間に履修登録できる単位数には上限が設けられている。4年間で卒業するために、計画的に単位を修得すること。

## 【人間文化学部】

学 科	1年次		2年次		3年次		4年次		前年度のGPAが3.0以上の場合の上限単位数の特例
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	年間		年間		年間		年間		
英語英文学科	24	24	24	24	24	24	24	24	前期28、後期28まで
	48		48		48		48		
人間文化学科	26	26	26	26	26	26	26	26	年間57(ただし半期30)まで
	49		49		49		49		

## 【生活福祉文化学部】

学 科	1年次		2年次		3年次		4年次		前年度のGPAが3.0以上の場合の上限単位数の特例
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	年間		年間		年間		年間		
生活福祉文化学科	24	24	24	24	24	24	24	24	前期28、後期28まで

## 【心理学部】

学 科	1年次		2年次		3年次		4年次		前年度のGPAが2.8以上の場合の上限単位数の特例
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	年間		年間		年間		年間		
心理学科	24	24	26	26	26	26	26	26	年間53(ただし半期30)まで
	46		49		49		49		

- (注) 1 人間文化学部及び生活福祉文化学部については、卒業のために必要な単位以外の単位を含まない。  
 2 特定科目、学則第17条及び第17条の2の規定により本学以外での学修を認定する科目、長期休業期間に実施される集中科目及び特別選択科目の単位を含まない。  
 3 学長が教育上特に必要と認めるときは、教授会の議を経て、上限単位数を変更して適用することができる。

(8) 前提科目とその他の履修条件

科目Aの単位を既に修得していることが科目Bを履修するための条件である場合、科目Aを科目Bの「前提科目」とい、「履修科目表」の備考欄に **前提科目** マークで示されている（下表参照）。前提科目Aが未修得のまま科目Bを登録しようとすると、例外なく「登録エラー」となりその科目は登録できない。

また、「登録エラー」には関係しないが、**前提科目** 以外の履修条件等が指定されている科目がある。先に履修しておくべき科目や、あらかじめ必要となる学力レベルなどが示しており、これらの条件を満たした人を対象に授業が行われるので、原則としてこれに従うこと（英語英文学科の専門教育科目については、指定された条件を満たさずに当該科目の履修を希望する場合は科目担当教員又は学科の許可が必要である）。

【前提科目が設定されている科目】（平成26年度入学者適用）

学科等	科 目 名	前提科目
共通	医 学 概 論 Ⅱ	医学概論Ⅰ
英語 英文	医療サポート英語Ⅱ	医療サポート英語Ⅰ
	ホスピタリティ論Ⅱ	ホスピタリティ論Ⅰ又はホスピタリティ入門
生活 福祉 文化	アドバンストキュイーズーン（応用調理実習）	ベーシックキュイーズーン（基礎調理実習）
	住 計 画 演 習 Ⅰ	住居製図Ⅰ・Ⅱ
	住 計 画 演 習 Ⅱ	住居製図Ⅰ・Ⅱ 住計画演習Ⅰ
	建 築 法 規	建築一般構造
	建 築 構 造 力 学	建築一般構造
	建 築 施 工	建築一般構造
	建 築 材 料 学	建築一般構造
	社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	社会福祉援助技術実習指導Ⅰ
	社会福祉援助技術実習指導Ⅲ	社会福祉援助技術実習指導Ⅱ
	地 域 福 祉 論 Ⅱ	地域福祉論Ⅰ
	精 神 医 学 Ⅱ	精神医学Ⅰ
	保 育 実 習 指 導 Ⅱ	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2
	保 育 実 習 指 導 Ⅲ	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2
	保 育 実 習 Ⅱ	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2
保 育 実 習 Ⅲ	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2	
心理	中 級 実 験 実 習	初級実験実習Ⅰ又は初級実験実習Ⅱ
	心 理 学 情 報 処 理	推測統計学Ⅰ・Ⅱ
	臨 床 心 理 ア セ ス メ ン ト	心理テスト実習
	臨 床 相 談 演 習	臨床相談実習
	精 神 医 学 Ⅱ	精神医学Ⅰ
資格	博 物 館 実 習 Ⅰ	博物館概論
	博 物 館 実 習 Ⅱ	博物館概論
	日 本 語 教 育 実 習 Ⅰ	日本語教育入門
	日 本 語 教 育 実 習 Ⅱ	日本語教育実習Ⅰ
	日 本 語 教 育 実 習 Ⅲ	日本語教育実習Ⅰ
	日 本 語 教 育 実 習 Ⅳ	日本語教育実習Ⅰ

(注) 教育実習については別に条件が定められている。

(9) 留意事項

- ① 登録した科目でないと履修（単位修得）できないので注意すること。
- ② 登録の変更や追加は定められた期間に許可された科目についてのみ認められる。
- ③ 必修科目の単位を修得できなかったときは、当該科目を再履修しなければならない。
- ④ 選択必修科目の単位を修得できなかった場合は、その科目の属する科目区分の他の選択必修科目を履修してこれに代えることができる。
- ⑤ 同一名の科目は、履修して合格した最初の1科目の単位のみ認められる（特定目的海外研修を除く）。年度によって担当者・講義内容の異なる同一名の科目も同様の扱いとなるので注意すること。
- ⑥ 同一講時に履修できるのは1科目のみで、2科目以上を登録することはできない（隔週の科目、半年を前後半に分割

する科目を除く)。

- ⑦ 登録までに履修に関する説明会が実施されるので出席すること。
- ⑧ 授業時間は、学生の個人的事情で変更されることはない。履修科目の組合せに留意して計画を立てること。
- ⑨ 非常勤講師担当科目で、受講者数が5名以下の場合は、原則として開講されない。ただし、必修科目、選択必修科目、教職・司書などの資格関係科目を除く。

## 14. 成績評価について

- (1) 授業科目の成績評価は、筆記・口述試験、論文、レポート、実験、実習、実技及び授業参加度などで行われる。
- (2) 授業科目の成績評価は、原則として半年毎に授業担当者から教務課に提出される。ただし、通年の科目は学年末に提出される。
- (3) 履修した科目の修得単位及び成績は、原則として学期末に教務課から保証人及び本人の連名宛てに通知する。ただし、通年及び夏期集中の科目は原則として学年末に通知する。
- (4) 成績の評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。
- (5) 成績通知書の評価については、次の基準により換算して記載する。

90点以上	秀	(A)	} ( ) 内は英文証明書用
80～89点	優	(B)	
70～79点	良	(C)	
60～69点	可	(D)	
59点以下	不可		
評価なし	/	(試験欠席、出席日数不足など)	

ただし、学則第16条、第17条及び第17条の2の規定により本学以外での学修を認定する科目は「認定」(英文は「T」)で示される。100点を満点とする評価が難しい科目は「合格」(英文は「P」)で示される。

なお、成績証明書については「不合格」及び「/」は記載しない。

- (6) 受取った成績について問合せたいことがあるときは、成績通知後3週間以内に「成績に関する相談申込用紙」(所定用紙)を教務課に提出すること。教務課から教員へ問合せ、後日回答する。

## 15. GPA (Grade Point Average) について

GPA (Grade Point Average) とは、成績評価に応じた得点=GP (Grade Point、0～4の5段階) を履修登録総単位数で割って1単位あたりの平均値を出したもので、履修指導や留学・奨学金等の選考などに使われる。大学によって得点や平均の算出方法が異なるが、本学では以下のとおり(小数点以下第3位を切り捨てる)とする。

$$\frac{4 \times \text{「秀」の修得単位数} + 3 \times \text{「優」の修得単位数} + 2 \times \text{「良」の修得単位数} + 1 \times \text{「可」の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」「/」の単位数を含む)}}$$

不合格科目や途中で放棄した科目はGP「0」となり、GPA評価が下がるので、履修登録に際しては細心の注意を払うこと。学部が特に必要と認める場合を除き、一度合格した科目は再履修できない。学外に向けて発行する成績証明書にはGPAは記載するが、不合格科目そのものは記載しない。

100点満点での評価とGPとの関係は下表のとおり。

	素点 (100点満点)	成績通知・成績証明の評価		GP	通知書の記載	証明書の記載
			英文成績証明書			
合格	90～100	秀	A	4	する	する
	80～89	優	B	3	する	する
	70～79	良	C	2	する	する
	60～69	可	D	1	する	する
	他大学で修得した単位等	認定①～⑥	T①～⑥	対象外	する	する
	素点評価しない科目	合格	P	対象外	する	する
不合格	59以下	不可		0	する	しない
	評価なし (放棄・試験欠席など)	/		0	する	しない
	再履修により合格した場合の元の科目の記録	(元のまま残る)		対象外	する	しない
	履修中止した場合	履修中止		対象外	する	しない

GPAの対象となる科目は以下のとおりとする。

- (1) 共通教育科目
- (2) 専門教育科目
- (3) 学際教育科目

ただし、下記の科目の成績はGPAの対象外とする(分母に含めない、またはGPを算出しない)。

- 「認定(T)」「合格(P)」「/留学」で評価される科目の成績
- 卒業要件に算入されない資格科目等の成績
- 再履修して合格した場合、その科目の過去の(不合格の)成績

## 16. 学期途中での履修中止

各学期開始後1ヶ月程度の時期に設ける履修中止申請期間に教務課に申請した場合に限り、学期途中(通年科目については前期のみ)での履修中止を認める。ただし、学部が特に必要と認める場合を除き、必修科目・仮登録科目・学外実習科目等は履修中止できない。履修中止した科目は成績通知書に「履修中止」と記載するが、GPA対象外とし、成績証明書には記載しない。いったん履修中止した科目について、同じ学期に履修を復活させることはできない。

## 17. 掲示及び学生ポータルサイトによる通知・連絡について

履修登録の不備、休講、補講、教室の変更、試験日程などの授業関係及び留学その他の通知・連絡事項はすべて掲示または学生ポータルサイト(Campusmate)で行うので、登校・下校の際は必ず**掲示板**に注意するとともに、サイトをチェックすること。

## 5-(2) 教育方針（3つのポリシー）

### 1. アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

京都ノートルダム女子大学は、学問の街である京都の地に「Virtus et Scientia（徳と知）」を建学の精神に掲げ、「深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与すること」を目的とし高い意識のもと1961年に創立された女子大学です。

文化の多様性を理解し異文化に対する寛容な国際感覚や、現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力、豊かで質の高い生活を営み、さらに質の高い社会を創造する支援者として活躍できる力を身につけた女性の育成を教育の目標にしており、多数の卒業生が社会で活躍しています。

このような精神のもと、本学では、建学の精神・カトリック精神、また英語英文学科・人間文化学科・生活福祉文化学科・心理学科の学びや特色に共感し、主体的に学び、研究を深める意欲ある入学者を求めています。京都ノートルダム女子大学では各学部学科がその教育目標にあわせた多様な入学者選抜試験を行い、基礎学力を備え、豊かな経験を有する女性の入学を広く国内外から受け入れています。

#### <1年次生>

#### 〈人間文化学部 英語英文学科〉

##### 【学ぶ内容および特色】

英語英文学科は、英語を機軸にして、英語圏文化についての知識、英語教育の知識と資格、その他ホスピタリティを含む実践的能力と人間性を備え、異文化の環境でも力を発揮できる柔軟で心豊かな国際人を輩出することを目的に教育を行っています。したがって以下のような学生の入学を期待します。

##### 【入学を期待する学生像】

1. ことばとしての「英語」に興味を持ち、同時に英語圏の文化、歴史、社会、コミュニケーションに幅広く関心を寄せる人。
2. 特に英語圏の文化や文学（作品）に関心があり、これらを専門的に学ぶことによって深い教養と豊かな心を育みたい人。
3. 留学制度等を活用し徹底的に「英語力」と実践的な英語スキルを磨き、グローバルに活躍するための能力を身につけた人。
4. 英語の教諭免許（中学校・高等学校第一種）を取得し、将来教員を目指す人。
5. 幼児・児童の言語獲得や英語指導法を学び、早期英語教育に携わることを目指す人。
6. ホスピタリティやコミュニケーションについて深く学び、航空業界など実社会に通用する人間基礎力を磨きたい人。
7. 本の執筆やエッセイの出版、ブログやHPの開設、そしてスピーチや演説などの情報発信を英語で行う力を身につけた人。

##### 【入学者が履修しておくことが望ましい科目や資格】

英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティングを履修し、読む、書く、話す、聞く、の英語における4分野の学習をしていること。また、現代文、世界史の履修が望ましいです。また、TOEIC®、TOEFL®、実用英語技能検定等の学習をしていると大いに役立ちます。

#### 〈人間文化学部 人間文化学科〉

##### 【学ぶ内容および特色】

人間文化学科では、「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の4領域にわたり、国際的な広い視野をもちつつ、文化について深く考察する教育プログラムを展開しています。また、社会の即戦力となる実践的スキルを習得した人材育成のため、積極的かつ系統的に必要な能力・資格を身につけていく「キャリアデザインプログラム」を併せて実施し、学生個々のキャリア形成を強力に支援します。とくに、1～2年次を中心に、書き言葉・話し言葉の両面から国語力を養成し、就職などにも役立つプレゼンテーション能力の向上につなげます。

##### 【入学を期待する学生像】

1. 言語や文学に関心があり、その構造や歴史について学びたい人。
2. 国語力に磨きをかけたい、あるいは新たに外国語を学びたいと思っている人。
3. 朗読、スピーチ、話し言葉など、音声言語について学びたいと思っている人。プレゼンテーションの能力を高め、資格

を取得したいと思っている人。

4. 神社仏閣など、日本の伝統文化に関心があり、古都京都を「学びのフィールド」として、日本文化の奥深さを体感したい人。
5. 世界の多くの異なる文化について理解し、多様な文化交流の歴史や今日のグローバル社会における異文化交流や国際政治の現状について学びたい人。
6. さまざまなジャンルの芸術について理解し、その歴史や思想的・宗教的背景について学びたい人。
7. 書物や読書の歴史を学びたい人。また、子どもの成長過程における読書の意義について考え、子どもへの読書支援活動を行いたい人。
8. インターネット社会が展開する新しい文化活動の実態を分析してみたい、あるいはネットワーク社会における倫理の問題について考えたい人。情報処理士やウェブデザイン実務士など、コンピューターに関するさまざまな資格を取得したいと思っている人。
9. 中学・高校の国語科教諭免許や、外国人に教える日本語教員資格を取得したいと思っている人。
10. 博物館学芸員の資格を得て博物館や美術館関連の職業をめざしたい人。
11. 図書館司書資格を得て図書館関連の職業につきたい人。

#### 【入学者が履修しておくことが望ましい科目の一例】

外国語、国語、公民、地理歴史の必修科目を確実に修得しておくこと。また、情報、芸術関係の科目についても、強い関心のある人は、知識や能力を高めておくこと。

#### 【入学者が取得しておくことが望ましい資格の一例】

漢字検定2級、日本語検定3級、その他各自が関心をもっている領域の検定（例.京都・観光文化検定試験、P検（ICTプロフィシエンシー検定試験）3級など）を受検すること。

## 〈生活福祉文化学部〉

### 【学ぶ内容および特色】

生活福祉文化学部では、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などを習得し、さらに現代社会の要請に応じた対人援助能力、実践的問題解決能力を身につけた「生活者を支援する人材」を養成することを目標としています。以下のような学生の入学を期待します。

### 【入学を期待する学生像】

1. 幅広い視野で生活と福祉をみつめ、よりよい「暮らし」をデザインしていこうとする情熱をもち、自ら積極的に学ぶ意欲と能力を持つ人。
2. 衣・食・住・健康など身近な事象を有機的なつながりをもって学ぶことによって、社会の本質を見極める確かな目を養い、現代生活をより快適に過ごす「生活のスペシャリスト」を目指そうとする人。
3. 地域社会への理解を深め、人々の暮らしについて様々な問題意識を持ち、社会貢献や女性の視点を活かしたビジネスチャンスの創造に対する意欲と関心を持つ人。
4. 現代生活における様々な課題に対応できる基礎知識と技能を備え、地域や社会に還元する教育実践活動に関心を持つ人。
5. 保育・児童福祉、高齢者福祉、障がい児・障がい者福祉など各分野において、人間に対する深い理解や対人援助の理論や技術を幅広く身につけた福祉専門職を目指す意欲と関心を持つ人。

### 【高等学校において履修すべき科目や取得が望ましい資格等】

1. 「暮らし」や「福祉」という人間の生活に関わる学びの基礎には、文章読解力や作文能力、対人コミュニケーション力が求められます。そのため、「国語表現」、「国語総合」といった国語に関する科目や、「英語」についての基礎的な学習をしておくことが大切です。
2. 「暮らし」や「福祉」に関する知識・技術・態度を身につけていくための基礎として、「家庭基礎」、「家庭総合」といった家庭に関する科目や、「現代社会」といった科目に関心を持って取り組んでおくことが望まれます。
3. また、高等学校の専門学科、総合学科における人の暮らしに関わる専門科目は本学部における学びに役立ちます。特に以下に示す学科での専門科目は本学部における学びを深めていく上で重要です。

家庭に関する学科：「生活産業基礎」などのすべての専門科目

福祉に関する学科：「社会福祉基礎」などのすべての専門科目

農業に関する学科：「食品製造」などの専門科目

商業に関する学科：「マーケティング」などの専門科目

総合学科：「産業社会と人間」などの専門科目

4. 以上のような教科・科目での学びだけでなく、「総合的な学習の時間」やボランティアなどを含む課外活動は、人間や生

活に関する問題・課題への興味・関心を高め、個性豊かな人間性の基礎となるものです。こうした実践的な活動経験は本学部での学びに大いに役立ちます。

## 〈心理学部〉

### 【学ぶ内容および特色】

心理学部においては、実験、観察、調査などの実践的内容を含む授業をとおし、「人間行動を客観的に深く分析できる人材の養成」と「家庭や学校や社会のすべての場で心を理解し、人と関わるための対応ができる人材の養成」を目指しています。具体的には、次のような学生の入学を期待します。

### 【入学を期待する学生像】

1. 人のこころを理解し、人との関わりや対話を大切に考え、心理学に幅広く関心を持っている人。
2. 心理学の知識や技能を習得し、現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力や産業界で活躍できる力を身につけたい人。
3. 心理学への学習意欲や問題探求心に優れ、様々な問題や事象について論理的に考え、解決策を追求することに熱意がある人。
4. 人間の思考や行動、人間関係や社会構造に興味を持ち、心理学の見地から深く探究したい人。
5. 現代社会に生きる人々が抱える心理的諸問題を解決し、社会に寄与したいと考える人。
6. 認定心理士、社会調査士、産業カウンセラーなど心理学関係の資格や教諭免許（幼稚園及び小学校第一種）を取得し、将来その資格を活かした職業に就きたい人。

### 【入学までに求める学習経験】

国語や英語の学習を通して、読む・書く・話す・聞くといった経験を積み、説明力やコミュニケーション力をつけることが大切です。そして、社会（地理歴史・公民）の学習を通して、現代社会や身の周りの出来事に関心と問題意識を持ち、課外活動などを通して、その解決方法を考えたり実行していることが望めます。また、基礎的な数学（数学Ⅰ）や理科での学びを通して、物事を客観的に捉える力も必要です。得意・不得意に関わらず、各科目を幅広く学習しておくことを望みます。

## 〈編入〉

### 〈人間文化学部 英語英文学科〉

### 【学ぶ内容および特色】

英語英文学科は、英語を機軸にして、英語圏文化についての知識、英語教育の知識と資格、その他ホスピタリティを含む実践的能力と人間性を備え、異文化の環境でも力を発揮できる柔軟で心豊かな国際人を輩出することを目的に教育を行っています。したがって以下のような学生の入学を期待します。

### 【入学を期待する学生像】

1. ことばとしての「英語」に興味を持ち、同時に英語圏の文化、歴史、社会、コミュニケーションに幅広く関心を寄せる人。
2. 特に英語圏の文化や文学（作品）に関心があり、これらを専門的に学ぶことによって深い教養と豊かな心を育みたい人。
3. 徹底的に「英語力」と実践的な英語スキルを磨き、国際社会や異文化環境においても実力を発揮する能力を身につけたい人。
4. 英語の教諭免許（中学校・高等学校第一種）を取得し、将来教員を目指す人。
5. 幼児・児童の言語獲得や英語指導法を学び、早期英語教育に携わることを目指す人。
6. ホスピタリティやコミュニケーションについて深く学び、航空業界など実社会に通用する人間基礎力を磨きたい人。
7. 本の執筆やエッセイの出版、ブログやHPの開設、そしてスピーチや演説などの情報発信を英語で行う力を身につけたい人。

### 【入学者が履修しておくことが望ましい科目や資格】

英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティングを履修し、読む、書く、話す、聞く、の英語における4分野の学習をしていること。また、現代文、世界史の履修が望ましいです。また、TOEIC®、TOEFL®、実用英語技能検定等の学習をしていると大いに役立ちます。

### 〈人間文化学部 人間文化学科〉

### 【学ぶ内容および特色】

人間文化学科では、「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の4領域にわたり、国際的な広い視野をもちつつ、文化について深く考察する教育プログラムを展開しています。また、社会の即戦力となる実践的スキ

ルを習得した人材育成のため、積極的かつ系統的に必要な能力・資格を身につけていく「キャリアデザインプログラム」を併せて実施し、学生個々のキャリア形成を強力に支援します。

#### 【入学を期待する学生像】

1. 言語や文学に関心があり、その構造や歴史について学びたい人。
2. 国語力に磨きをかけたい、あるいは新たに外国語を学びたいと思っている人。
3. 朗読、スピーチ、話し言葉など、音声言語について学びたいと思っている人。プレゼンテーションの能力を高め、資格を取得したいと思っている人。
4. 神社仏閣など、日本の伝統文化に関心があり、古都京都を「学びのフィールド」として、日本文化の奥深さを体感したい人。
5. 世界の多くの異なる文化について理解し、多様な文化交流の歴史や今日のグローバル社会における異文化交流や国際政治の現状について学びたい人。
6. さまざまなジャンルの芸術について理解し、その歴史や思想的・宗教的背景について学びたい人。
7. 書物や読書の歴史を学びたい人。また、子どもの成長過程における読書の意義について考え、子どもへの読書支援活動を行いたい人。
8. インターネット社会が展開する新しい文化活動の実態を分析してみたい、あるいはネットワーク社会における倫理の問題について考えたい人。情報処理士やウェブデザイン実務士など、コンピューターに関するさまざまな資格を取得したいと思っている人。
9. 中学・高校の国語科教諭免許や、外国人に教える日本語教員資格を取得したいと思っている人。
10. 博物館学芸員の資格を得て博物館や美術館関連の職業をめざしたい人。
11. 図書館司書資格を得て図書館関連の職業につきたい人
12. これまでの学習を通して、文献を読んだり、レポートを作成したりすることにある程度習熟し、ゼミでの卒業研究や論文制作に支障がないと思われる人。

#### 【入学者が履修しておくことが望ましい科目の一例】

学科に関連する日本や世界の文化・芸術、読書や情報の文化、などの領域のうち、入学者の関心領域について、基礎的な知識や能力を確実なものにし、理解を深めておくこと。

#### 【入学者が取得しておくことが望ましい資格の一例】

漢字検定2級、日本語検定3級、その他各自が関心をもっている領域の検定（例.京都・観光文化検定試験、P検（ICTプロフィシエンシー検定試験）準2級など）

### 〈生活福祉文化学部〉

#### 【学ぶ内容および特色】

生活福祉文化学部では、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などを習得し、さらに現代社会の要請に応じた対人援助能力、実践的問題解決能力を身につけた「生活者を支援する人材」を養成することを目標としています。以下のような学生の入学を期待します。

#### 【入学を期待する学生像】

1. 幅広い視野で生活と福祉をみつめ、よりよい「暮らし」をデザインしていこうとする情熱をもち、自ら積極的に学ぶ意欲と能力を持つ人。
2. 衣・食・住・健康など身近な事象を有機的なつながりをもって学ぶことによって、社会の本質を見極める確かな目を養い、現代生活をより快適に過ごす「生活のスペシャリスト」を目指そうとする人。
3. 地域社会への理解を深め、人々の暮らしについて様々な問題意識を持ち、社会貢献や女性の視点を活かしたビジネスチャンスの創造に対する意欲と関心を持つ人。
4. 現代生活における様々な課題に対応できる基礎知識と技能を備え、地域や社会に還元する教育実践活動に関心を持つ人。
5. 保育・児童福祉、高齢者福祉、障がい児・障がい者福祉など各分野において、人間に対する深い理解や対人援助の理論や技術を幅広く身につけた福祉専門職を目指す意欲と関心を持つ人。

#### 【編入対象者に求める学習経験】

1. 「暮らし」や「福祉」という人間の生活に関わる学びをより豊かなものとするためには、文章読解力や作文能力、対人コミュニケーション力といった基礎的な学力と共に、短期大学などで培った専門的な知識や課題解決力がその基盤となります。ここでいう専門的な知識とは、生活科学、社会福祉学、保育学といったものがその中核となります。しかし、生活福祉文化学部での学びの基盤となるものは、これらの領域に限定されるものではなく、多様な領域での専門的な知識もその基盤となり得るものです。

2. ボランティアなどを含む課外活動は、人間や生活に関する問題・課題への興味・関心を高め、個性豊かな人間性の基礎となるものです。こうした実践的な活動経験は本学部での学びに大いに役立ちます。

## 〈心理学部〉

### 【学ぶ内容および特色】

心理学部においては、実験、観察、調査などの実践的内容を含む授業をとおり、「人間行動を客観的に深く分析できる人材の養成」と「家庭・学校・社会で人のこころを理解し、接遇と援助ができる人材の養成」を目指しています。具体的には、次のような学生の入学を期待します。

### 【入学を期待する学生像】

1. 人のこころを理解し、人との関わりや対話を大切に考え、心理学に幅広く関心を持っている人。
2. 心理学の知識や技能を習得し、現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力や産業界で活躍できる力を身につけたい人。
3. 心理学への学習意欲や問題探求心に優れ、様々な問題や事象について論理的に考え、解決策を追求することに熱意がある人。
4. 人間の思考や行動、人間関係や社会構造に興味を持ち、心理学の見地から深く探究したい人。
5. 現代社会に生きる人々が抱える心理的諸問題を解決し、社会に寄与したいと考える人。
6. 認定心理士、社会調査士、産業カウンセラーなど心理学関係の資格や教諭免許（幼稚園及び小学校第一種）を取得し、将来その資格を活かした職業に就きたい人。

### 【三年次編入学対象者に求める学習経験】

1. 人のこころをより深く理解し、それを活用して問題解決や対人援助に結びつけていくためには、論理的思考力や文章読解・作文能力、対人コミュニケーション力といった基礎的な学力と共に、短期大学などで培った専門的な知識や経験がその基盤となります。ここでいう専門的な知識とは、心理学（行動科学）・教育学・社会学といった人文・社会科学系の学問的知識を中心としますが、三年次から編入するにあたっては、これらの領域のみならず、近接領域でのこころの理解に関する専門的知識もその基盤となり得るものです。

これらの基盤に基づき、課題を自分なりに工夫して解決したり、問題意識を持って主体的・積極的に学習していく姿勢が望まれます。

2. 編入学前の学生生活や社会人生活において、家庭・地域・産業社会において自発的な実践活動を様々に経験しておくことを要望します。

### 【二年次編入学対象者に求める学習経験】

1. 人のこころをより深く理解し、それを活用して問題解決や対人援助に結びつけていくためには、論理的思考力や文章読解・作文能力、対人コミュニケーション力といった基礎的な学力と共に、専門的な知識や経験が必要です。二年次から編入するにあたっては、現代社会における心理や教育のさまざまな問題について、積極的な関心と探究心を持っていることが基盤となります。

また、課題を自分なりに工夫して解決したり、問題意識を持って主体的・積極的に学習していく姿勢が望まれます。

2. 編入学前の学生生活や社会人生活において、家庭・地域・産業社会において自発的な実践活動を様々に経験しておくことを要望します。

## 2. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

1. 全人的な「常識」と「良識」そして「情緒」と「品性」を備えた女性の育成をめざした「総合的教養教育」を展開する。そのために、共通教育科目に、ライフキャリア形成科目、カトリック教育科目、リテラシー・スポーツ科目、外国語科目、教養科目を設置する。
2. 総合的な教養を基盤として、現代社会で求められている専門的な知識、技能、技術を身につけた女性の育成を目指し、各学部における専門教育を展開する。
3. 所属の専攻領域に隣接する領域科目や関心のある他分野の科目を積極的に履修して、学際的に学ぶことを奨励し、それを保障する柔軟な教育課程編成をとる。

## 〈人間文化学部 英語英文学科〉

英語英文学科は高度な語学力を武器に、異文化の中でも力を発揮できる柔軟で教養豊かな国際人を育成するという教育目標のために、次のような教育を行っています。

1. 語学教育による英語基礎力の習得

基礎的な英語技能を習得できる「専門基礎科目」群を設置している。1、2、3年次の語学必修科目においては習熟度別の少人数クラス編成とし、専門教育、教職課程、プログラム科目の基礎となる英語力を培う。

## 2. 専門教育による専門的知識の習得

「グローバル英語コース」と「英語教養コース」を設ける。各コース共通の「専門基幹科目」を履修することで得られた専門的知見を基盤として、各コースに定められた「専門展開科目」群のうち、グローバル英語コースは12単位、英語教養コースは16単位を選択必修として学ぶ。3年次の必修「英語英文学演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の必修「卒業研究」における英語による卒業論文執筆活動を通して、英語圏の文化や言語に精通する。

## 3. グローバル英語コース

グローバル英語コースでは、2年次の後期に行う留学経験に加えて、授業言語を英語とする「専門展開科目」群をバランスよく履修することにより、三領域Japanese Culture and Global Awareness、Literature and Global Culture、Language and Global Communication における専門的知見を身につけるとともに、深い異文化理解とグローバルな視点に基づいた卓越した国際コミュニケーション能力を獲得する。

## 4. 英語教養コース

英語教養コースでは、授業言語を英語または日本語とする「専門展開科目」群のなかから、三つの専門領域をバランスよく、あるいは一つの領域に集中して履修することにより、英語英文学、言語学、コミュニケーション学に関する専門的な学術知識を身につけるとともに、豊かな教養とグローバルな視点に基づいた批判的・論理的思考力を培う。

## 5. キャリア教育による社会人基礎力および実践的英語コミュニケーション力の育成

英語教育、エアラインプログラム、医療サポート語学プログラム（英語）、プレゼンテーション実務士に関する科目群を両コース共通の「専門関連科目」として開設し、将来国際人として活躍できる社会人基礎力および実践的英語コミュニケーション力を伸ばす。

## 〈人間文化学部 人間文化学科〉

人間文化学科は、芸術から思想まで多様な文化現象に通じ、自国の文化を知ると共に異文化に敬意を払う人材を育成するために、次のような教育を行っています。

1. 「人間文化」の多彩な教養の学びとして、「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の4領域を用意している。
2. 「基礎演習」（1年次）により少人数制の初年次教育を開始し、「発展演習」（2年次）、「専門演習」（3年次）、そして「卒業研究」（4年次）において卒業論文または卒業制作の指導を行う。
3. 中・高等学校国語科教員免許課程をはじめとして各種の免許・資格取得のための課程を提供する。
4. 学生のそれぞれの関心に合わせて科目履修ができるように、フレキシブル単位ゾーンを確立し、卒業要件単位の科目区分を緩和し、26単位まで自由な履修が可能である。
5. ゼミ演習、フィールドワークなど社会人基礎力につながる実践教育を行っている。卒業時には「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につける教育を実践している。

## 〈生活福祉文化学部〉

生活福祉文化学部は、「生活者を支援する人材養成」という目標実現のため、次のような科目構成で学びを深めています。

1. 初年次における必修科目「生活福祉文化基礎演習Ⅰ、Ⅱ」を中心に、大学生に必要な学習技術を習得し、生活福祉文化の基礎的な知識と研究法を体得することを通して、高等学校等から大学への円滑な移行を図る。  
2年次ではさらに発展させた「生活福祉文化基礎演習Ⅲ、Ⅳ」を必修科目として配置し、3年次の「生活福祉文化特論」へのアプローチとして、幅広いフィールドワーク等を取り入れた実践教育を目指す。
2. 生活の基盤である生活学の領域、人間の在り方や生き方の理解を深める社会福祉学の領域の学びを深め、自らの探求基盤を形成するために、「ライフデザイン領域」と「ソーシャルワーク領域」という2領域を配置し、専門的な知識・態度・志向性を明確にすることで、一人ひとりの学生がその関心・志望に応じた学びのデザイン作りを促進する。
3. 専門的かつ多様な学びをサポートするために、履修する領域をひとまとまりとして明示した「フィールド」と、さらにそのフィールドを構成する科目を具体的な学びによって細分化した「ユニット」に区分して、効率よくオリジナリティのある学びのデザイン作りを可能としている。
4. 3、4年次においては、「生活福祉文化特論」「卒業研究」といった科目を中心として自らの探求基盤を踏まえ、各自の探求課題を具体化し個別的研究課題の解明に取り組む。

## 〈心理学部〉

心理学部は、複雑化する現代の社会的要請に応えるために、3つの専攻（現代心理、学校心理、臨床心理）を設け、各専攻に精通した人材の育成という教育目標を実現するために、次のようなカリキュラムを編成し、教育を行っています。

1. 3専攻とも「基礎科目」「展開科目」「関連科目」「専門演習・卒業研究」を設置し、これらを通して、心理学の知識と技術の修得を可能にする。
2. 「基礎科目」では、心理学の概論的知識と方法論を学び、心理学の基本的理論や基礎知識、学術用語を習得することをめざし、心理学的アプローチの基盤を身に付ける。初年次においては、専門教育への導入として、基礎的な日本語能力やデータ活用の方法を身に付ける。
3. 「展開科目」では、それぞれの専攻の知識や方法を専門的に学び、より高度な知見や方法論を修得する。
4. 「関連科目」では、自らの興味や関心、問題意識に基づいて選択し、心理学をより深く、広く理解することをめざす。
5. 3年次からの「専門演習・卒業研究」では、大学における自らの学習のまとめとして、問題設定、方法論の修得など卒業論文作成までの過程について少人数のゼミで主体的に取り組むことをめざす。
6. 学校心理専攻においては、小学校・幼稚園の教育職員免許状を取得するための教職課程を設け、現代心理専攻では社会調査士取得のための科目を配置している。また、全専攻で認定心理士資格、情報処理士資格を取得するための科目を配置している。

## 3. ディプロマポリシー（学位授与方針）

1. 全人的な「常識」と「良識」を備えた上で、国際化・情報化の時代に対応し、幅広い知識と教養を身につける。
2. 建学の精神に基づき、卒業時まで身に付けるべき社会人基礎能力として、「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につけている。
3. 人間やその生活、社会、自然のすべてに関心をもって自己涵養に努め、成果を自らの生活や社会に還元しようとする態度をもつ。
4. 4年間にわたる講義や演習、実習及び実践型授業での学びを通して獲得する幅広い知識を活用し、批判的、論理的に思考する力を身につける。
5. 大学での総合的な学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき卒業研究に取り組み、学修成果をまとめる。

## 〈人間文化学部 英語英文学科〉

### 1. 知識

Japanese Culture and Global Awareness、Literature and Global Culture、Language and Global Communication あるいは英語圏の文学・文化、言語学、コミュニケーション学に関する学術的知識に基づいて、英語圏における文化と言語に関する諸問題を理解している。

### 2. 技能

基礎的な英語力を基盤として、グローバル社会で必要とされる高度な語学運用能力とコミュニケーション力を身につけている。多様化する社会で活躍するために必要な社会人基礎力と実践的な英語コミュニケーション力を備えている。

### 3. 態度

国際社会における諸問題に対処できるグローバルな視点や批判的・論理的思考力を身につけている。

## 〈人間文化学部 人間文化学科〉

1. 「日本語と日本文化」「多文化理解」「芸術と思想」「読書と情報の文化」の4領域にわたり、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる知識、技能を身につけ、応用できる。
2. 書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を身につける。
3. 社会の即戦力となる実践的スキルを習得した人材として、積極的かつ系統的に必要な能力・資格を身につける。
4. 4年間の学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき、学習成果を卒業論文または卒業制作にまとめる。

## 〈生活福祉文化学部〉

1. 文化的な視点を背景に「生活者を支援する人材」として必要な生活と福祉の専門的な知識、技能、技術などを身につけ、応用できる。
2. 現代社会における諸問題、とりわけ人の暮らしと福祉に関する諸問題に関心を持ち、理論と実践を結びつけた主体的解決能力を身につけ、社会の要請に応じた対人援助能力、問題解決能力をもつ。

## 〈心理学部〉

1. 心理学に関する基礎力と応用力を具体的に活用しながら、日常生活における人間の行動や心理的な諸問題を予測し理解できるような科学的な思考力及び判断力を修得している。
2. 現代社会における価値観の多様性と異文化間の種々の問題に心理学的に対処し、情報網を適宜に活用することによって、文化や価値観を超えた人の心の問題にグローバルな視野から貢献できる。
3. 学際的な領域を含む心理学の基礎理論および方法・技能を基盤に、自ら問題意識をもったテーマを主体的に探求できる。
4. 心理学的な知識を基礎に多様性のある柔軟な思考力を通して、自己実現を果たすことができる。
5. 地域社会とのコミュニケーションを図り、心理的な課題に積極的に取り組む姿勢を身につけることによって社会に広く貢献できる。